

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790400065		
法人名	社会福祉法人 金武あけぼの会		
事業所名	グループホーム ロースガーデン		
所在地	沖縄県沖縄市諸見里 3-41-30		
自己評価作成日	平成29年 1月 28日	評価結果市町村受理日	平成29年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成29年 3月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員がご利用者様一人ひとりの意思決定を尊重し、行える環境作りが確立されている。 ・施設周辺のお散歩を生活リズムの中に取り入れている。 ・地域ボランティアが毎月訪れる(余興)。 ・身体拘束ゼロを掲げ実践している。 ・自立支援を実践し、水分、栄養、排泄、運動によるオムツゼロ活動に取り組んでいる。 ・訪問歯科診療を毎週行っており利用者様の口腔内環境に配慮し健康面のサポートを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人全体で取り組んでいるオムツOを目標に、日中は8名の方がトイレ誘導での排泄を支援している。4名の居室にトイレが設置されており自立に繋がっている。法人の栄養士が年1回食事アンケートを実施しており、結果として1月にムーチャー、3月にヒラヤーチャーづくりを栄養士指導のもと、利用者全員で実施している。日常的に散歩が行われており、個別の買い物支援で近くのスーパーでおやつやの買い物をしたり、地域の馴染みの方と会話をする等、住み慣れた地域で継続した支援が行われている。又グループに分け年に数回、県の総合運動公園に出かけたり、季節の行事で昨年は浜うりを実施している。利用者の希望により、家族の協力のもと故郷訪問も行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 29年 3月 27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員は理念の考えの下、利用者の意思決定を尊重し、家庭的な雰囲気大切に個別支援を心掛け実践している。	事業所独自の理念が玄関に掲げられ、家族や職員が共有している。オープン当初からの職員が多く、「意思決定を尊重する」という理念のもと職員全体で具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・毎月、地域の婦人会が余興ボランティアを披露してくれたり、日課である散歩を通してお隣ご近所の方々と会話を交わしたり、又、公民館へ出向き、健康体操へ参加するなどの交流を図っている。	自治会から広報誌が届き、地域への行事に積極的に参加している。公民館での健康体操へ利用者とともに参加、カレーライスづくりを手伝っている。婦人会や青年会など地域のボランティアが訪れたり、散歩で近所の方が声かけを行う等、触れ合う機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所内に認知症に関するパンフレットを置いている。ご家族、来訪者へ提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に1回会議を開き、サービス提供状況の報告を行っている。委員の皆様からの意見を伺う中で、公民館での毎週開催される健康体操に利用者と共に参加できるようになりました。	偶数月に併設の介護老人福祉施設と合同で開催している。事業所の現状や事故報告、ヒヤリハット活動の取り組みなどを報告し、メンバーからの質問や意見、要望を受け、サービスの質の向上に向け取り組んでいる。	定期的に運営推進会議が開催され、行政や自治会などの参加はあるが、利用者家族の参加に向けての取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・生活保護担当者の定期的な利用者への訪問を受けながら連携を図ったり、包括支援事業所から時々、入居の受け入れ相談もある。又、連絡会には行政の担当者らも参加し活発な意見交換を行っている。	2か月に1回グループホーム連絡会が開催され、市町村の担当者も参加しており、事業所の実情を報告し情報交換をしている。事例困難ケースの対応については、地域住民や市町村と連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止、ゼロは施設目標の核であり、開所よりそれらの行為はないが、センサーマットを使用している利用者が一人おり、ご家族からの了承を得ている。	身体拘束廃止については、研修会への参加や職員ミーティング、日々の申し送り時などで共通理解をはかっている。入所時に家族から情報収集し、一人ひとりのその日の状態を把握することで、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員は、常に認知症を十分理解し、利用者への言葉遣いや介護、援助を正しく行える環境の下、ケアを行っている。		

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・外部研修に参加し、その資料の回覧、又は報告書をもって学ぶ機会を得ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時には必ず家族やご本人に対し、契約に関する説明を十分に行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご家族や利用者とのコミュニケーションを常に大事考え、普段から遠慮なく意見や要望が言える環境、雰囲気づくりを心掛けている。最近では、ご家族よりベットのカーテンを提案され管理者が制作した。 ・意見箱を入口横に設置している。	家族には面会時など常に声掛けし、意見や要望等を言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。年に2回家族会があり、出された意見や要望などは、職員ミーティングで話し合い運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は普段から何気ない会話、雑談の中で職員からの意見や要望等を聞いている。その中で、収納スペースを増設した。	管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけ、その中で問いかけたり、聞き出したりしている。月1回の職員ミーティングで意見や要望を聞くようにしている。職員から食事時間変更の意見があり、検討して変更されるなど意見が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・全職員が働きやすい職場環境整備や条件等を整える為の話し合いを管理者は常に代表者と意見交換に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々に応じた外部研修に参加したり、介護主任や介護支援専門員を中心に技術指導やメンタル指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2カ月に1回、連絡会への集まりに参加し、情報交換を図っている。		

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の思いや不安、意向などを確認し、常に傾聴する姿勢を持つ事に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族が置かれている状況を把握し、確認しながら希望や要望などを受け止め、解決案を提示しながら安心、納得を得ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人やご家族にとって最優先解決課題を見定めながら、他のサービスも視野に入れ、提案、対応するよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・自己決定が出来るような支援を心掛けると共に、利用者と寄り添う生活環境整備に努めている。又、テレビ鑑賞やコーヒータムなどリラックスしながら過ごす時間を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人、ご家族との絆を断ち切らないように積極的に面会、外出などの提案を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・ご家族が、かかりつけ医の病院受診の終わりにドライブして帰所されたり、又、特養入所中の利用者のご家族や共通の知人が訪ねて来たり、現役時代の元同僚も訪ねて来られる時もある。	地域に暮らす馴染みの知人、友人などが面会に来たり、地域の行事に積極的に参加する等、継続的な交流ができるよう支援している。日課の散歩で近所の方と会話をしたり、併設の老人福祉施設の友人を訪問したり、共通の知人の面会もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レクリエーションや手工芸を通して、交流の場を設けている。		

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約前、契約終了後も本人、ご家族との関係性を維持、相談があれば支援、助言に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活の中で、本人の表情や言動の中から思いや意向を汲み取り、ケアに繋げている。ご家族からは面会時に確認している。	入浴や排泄ケアなど、日々の関わりの中で、声を掛け、把握に努めている。意思疎通の困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るとともに、その時の表情や態度などからその思いを把握し、確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・生活歴や馴染みの暮らしを本人、ご家族から伺い、希望に沿ったサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日常から利用者の心身の状況、認知度についても把握し、出来ることを見つけて少しでも取り組みや活動に参加して頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護支援専門員を中心に、本人、ご家族、介護スタッフと話し合いを持ち、状況に即した介護計画書を作成し介護記録に残している。	利用者の思いを優先とし、家族や職員、関係者と、アセスメントを含め意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い介護計画が作成され、同意が得られている。定期及び状況の変化に伴い見直しが行われ、変更した計画の内容を職員ミーティングで周知し、統一したケアが実践されている。実施状況が介護記録に記録されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護記録へ個々の状況を記載し、スタッフ全員が情報を共有し把握できている。又、日々の状態やご家族とのやり取りを支援経過に記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・本人やご家族の現在の状況に応じ、共通のサービス以外に対しても臨機応変かつ柔軟なサービス支援に取り組めるよう支援している。		

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・馴染みの方であったり、通い慣れた場所、商店、病院など一人一人の地域資源の活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・普段は法人併設の森城に嘱託医がおり、状況に応じて状態の報告をしている。 ・ご家族へは、本人のかかりつけ医の病院や専門科への受診を促している。	入居者全員が入居前からのかかりつけ医を継続している。受診時は家族に書面及び口頭で情報提供を行ない、受診結果は家族から口頭や医療機関からの返書もらっている。必要時はケアマネも同行し情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・ローズガーデンには看護師配置はないが定期的に、法人併設の看護師が見守りに来てもらっている中、助言などを貰いながら適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護支援専門員が、入院先の地域連携職員と情報交換を密に行いながら、早期退院、受け入れ時期などの調整を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時に、ご家族へ状態悪化に対する意向を確認し、事業所内で出来ることを十分に説明し了解を得ている。又、終末期への移行の際には、法人併設の森城への転床も視野に、ご家族と両施設の関係職員との話し合いを持っている。	重度化や終末期について事業所は行なわない方針で、事業所ができる事を契約時に書面で家族に説明し、状態変化時にも説明している。医療行為が必要な場合は他機関への紹介をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・法人併設の森城看護師が中心になり、必要時には指導、助言を貰いながら日々のケアに繋げている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・昼夜を想定した消防避難訓練を年2回実施し、近隣事業所や地域住民も少数ながら参加協力体制が得られている。	法人全体で夜間想定で消防立ち会い訓練を年1回、昼間想定で自主訓練を年1回ずつ実施している。近隣住民へ呼びかけ参加、協力が得られている。防災設備は完備され、3日分の非常食などの備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・ケア実践時には、必ず本人に意思確認を行い、同意を得てから実践している。又、利用者の意思や思いを損なわないように声掛けにも細心の注意を払っている。 ・同性介助を基本としている。	理念である「利用者の思いを最大限尊重」を実践し、支援が必要な場合には利用者本人の意思確認をしてからケアしている。おやつ作りの調理等利用者本人ができる事や自主性を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・常に声掛けを行う中で、利用者の意思を確認し、自己決定が出来る支援を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・自室で休みたい時、おやつを食べたくない時、お風呂に入りたくない時など、利用者の訴えを聞き、その日の状態を考慮しながら声掛け、見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・月に1度出張散髪が訪問し、身だしなみの支援を行っている。又、定期的に爪切りや顔剃りなど行い、容姿には気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・個々の食にあった、形態を確認し、栄養バランスにも配慮した提供を行っている。又、不定期ではあるが、おやつ作りを実施し、利用者と共に簡単な調理も行っている。	法人内の厨房で調理された食事を3食提供しており、利用者は野菜の下ごしらえを手伝っている。法人栄養士が食事アンケートで利用者からの希望を取り入れた献立をもとに、月1回程度は法人栄養士と利用者と一緒におやつ作りを楽しみながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量を記載し、状況把握に努めている。水分摂取量1日1200～1500mlを目標に実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後、見守りや声掛け介助により、ケアが行われている。又、ご家族の意向や、義歯の状態により、毎週1回の訪問歯科による往診体制の中で、家族立会いの下治療が行われている。		

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・法人全体でオムツゼロを目標に取り組んでいる中、昼夜、利用者全員がトイレでの排泄が行えている。又、同性介助を基本としているが勤務上対応できない場合も理解を得ている。	「オムツゼロ」に向けて外部研修を受けた職員が事業所職員にフィードバックし共有・実践する事で利用者全員が昼夜トイレにて排泄している。尿意が曖昧な利用者へも排泄パターンを把握し前誘導でトイレにて排泄できている。入居前は紙パンツだった利用者が現在は日中布パンツで過ごせるようになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取量を1日1200～1500mlに設定し、様子を見たり、食物繊維補助食品などを活用して食事や飲み物に混ぜてあげたり、日中の活動量を増やしたりして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴前に、本人も一緒に着替えを準備したり、好みの服を選んで楽しんでいる。入浴は週3回実施し、利用者が希望する時間で支援している。嫌がる利用者には、決して無理強いせず、時間帯をずらしたり曜日を変更したりして対応している。	週3回の個別入浴を基本としているが、利用者が希望する時間や回数で入浴している。入浴拒否がある利用者へは職員や時間を変えて対応している。衣類の準備は利用者が職員と一緒にしない、整容時の乳液やヘアクリームは本人の好みの物を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・生活習慣や、本人の睡眠状態に合わせて休息を入れたり、寝具の調整をしたり、空調の調整をしたり、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬局からの調剤情報を確認し、わからない薬剤があれば法人併設の看護師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・歌を歌ったり、三味線を弾いたり、各々の趣味嗜好を確認しながらサービスに取り組んでいる。又、日々の散歩も楽しみの一つである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・毎年初詣や浜下りに出かけている。 ・普段から日常的にお散歩を楽しんでおり、希望があれば近くのスーパーまで足を伸ばします。又、定期的に自治会での健康体操に参加している。	日常的に建物4階や敷地内、近くのスーパーまでおやつ等の買い物しながら利用者と職員と一緒に散歩している。季節に応じて初詣や海に出かけて外出先で購入したハンバーガーや天ぷらを食べている。遠出や外食等の外出は家族の協力を得ながら支援している。	

沖縄県(グループホーム ローズガーデン)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人希望で買い物が出来るよう、家族へ説明し、少額の金銭を持たせることで理解を得ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人希望時に社内電話を使い、ご家族などに連絡を取っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・利用者の日常生活の写真や四季折々の絵柄を壁に張るなど、見る楽しみにも工夫している。又、共用スペースには大きな窓があり、常に心地よい光や風を提供している。	共有の壁には画家の絵や、利用者と職員と一緒に作成した季節の飾り、行事の写真等を飾っており、色彩を意識してシンプルにまとめている。利用者はそれぞれ落ち着く指定席があり、テレビを観たり職員と会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・気の合った利用者同士を相席にしたりフロア内にソファ置いてくつろいでもらえるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・出来るだけ、本人がこれまで使い慣れた物、装飾品などをご家族に持って来てもらっている。	居室は洋室と和室があり、全室ベッド・タンス・エアコン・洗面台が備えつけられ、和室にはトイレも設置されている。居室内は利用者が持ち込んだカラーボックスが置かれていたり、家族の写真が壁に飾られている。週1回は居室の掃除を行ない、できる利用者は一緒に掃除をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室内にトイレの設置があったり、台所がフロアと対面式であったり、一般的な家庭の雰囲気に近い構造になっているのもあって利用者が開きコップを流し台まで持って来てくれる。		